

ロックウエル推薦図書 2013年10月

『ごんぎつね — 新美南吉傑作選』

今年は「ごんぎつね」の作者新美南吉の生誕一〇〇年にあたります。立ち寄った書店で新美南吉フェアをやっていたので、講談社・青い鳥文庫の新美南吉傑作選を購入し、あらためてじっくり読んでみました。

本書に収録されている作品は次の通りです。今回は「青い鳥文庫」版を薦めているわけではありませんが、このリストを使って話を進めます。

- |             |              |
|-------------|--------------|
| ① ごんぎつね     | ⑦ 百姓の足、坊さんの足 |
| ② 手袋を買いに    | ⑧ 牛をつないだ樅の木  |
| ③ 空気ボンブ     | ⑨ 花のき村と盗人たち  |
| ④ 久助君の話     | ⑩ ひろったラッパ    |
| ⑤ 尻(へ)      | ⑪ 飴だま        |
| ⑥ おじいさんのランプ |              |

本書の巻末にある児童文学者浜野卓也さんの解説によると、南吉の作品は大きく3つに分類できるそうです。

- (1) 幼年向けの童話 ①②⑩⑪など  
(2) 少年小説 ③④⑤など  
(3) 民話的メルヘン ⑥⑦⑧⑨など

孤独と母への思慕

(1)は教科書などでおなじみですね。国民的文学といってもよいでしょう。幼いころ生母と死別した南吉は(継母にも大切されたのですが)さびしい幼年時代をすごしました。孤独な「ごん」や、慈愛に

あふれる「母親ぎつね」に南吉の思いを読み取ることができます。

心理小説

(2)は少年の心理描写が巧みで、自分や周囲に対して批判的な精神の芽生える思春期の皆さんにはおすすすめです。

今回気付いたのですが、南吉の作品には女の子がほとんど出てきません。登場する女性は、百姓のおばあさんか、やさしいお母さんです。南吉は早熟な天才でしたが、29歳で病死しました。結婚して、もし娘を授かることができたなら女の子を主人公にしたすばらしい童話を残してくれたのではないかと残念に思います。



『ごんぎつね - 新美南吉傑作選』  
講談社・青い鳥文庫  
定価(税込): 599円

晩年の傑作

今回読み直してみても、読書の喜びを特に味わうことができたのは(3)の次の作品です。

- ⑥ おじいさんのランプ  
⑧ 牛をつないだ樅の木  
⑨ 花のき村と盗人たち

ほとんどが死の前年に書かれたものだそうです。死を観念していた南吉は、人生や人間社会のすばらしさを子どもたちに伝えたかったのでしょう。

「因果応報」の世界観

周りの人をおもいやり、よい行いをすれば神仏の加護がある。自分勝手な考えを持ち、悪事をはたらけば、ばちがあたる。「因果応報(いんがおうほう)」といいますが、これらの作品のテーマになっています。単純すぎる世界観ですが、南吉の童話で読むと心にしみるような思いがします。

多様な存在

何より味わってもらいたいのは、登場する植物(や動物、昆虫)と職業の豊かさです。

「花のき村と盗人たち」だけで「すかんぼ」や「うまごやし」など11種類の植物の名前がありました。「いい匂いのする蜜柑(みかん)の木…」など、読んでいだけで幸せな気分になれる表現がちりばめられています。

同様に、「釜師」や「錠前屋」など多数の職業が出てきます。「月が、かがみ職人の磨いたばかりの鏡のように、光り…」など、人の仕事に誇りと信頼のあつた世界が描かれます。

私はかつて名古屋に行く機会があり、半日空いたので、レンタカーで南吉の出身地の知多半島を回ったことがあります。

中京工業地帯の巨大工場が並ぶ半島付け根を過ぎると、美しい港町が現れ、中央部には丘陵が続いていました。残念ながら日帰り温泉施設「ごんぎつねの湯」には寄れなかったのですが、「ごん」のふるさとの風景は目に焼き付けてきました。